授業改善推進中期プラン　国語〔小学校第6学年〕

昭島市立田中小学校

学年等		項目	内　容
令和6年度第4学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	○登場人物の気持ちに共感できる児童が多い。 ▲自分の考えたことを根拠をもって文章に表すことが苦手。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	根拠に基づき、自分の考えを表現する力
		具体的な授業改善の方策	話型を提示し、自分の気持ちの表現方法を指導したり、自分の伝えたいことに当てはまる言葉を見付けられるように、国語辞典で言葉を調べさせたり、読書をしたりして、語彙力を増やしたりする。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	○文章の組み立て方を確認したり、相手に伝わりやすいように理由や具体例を選んだりすることで、自分の考えを文章に表せるようになってきた。 ▲既習漢字を使って文章を書くことを苦手とする児童が多数いるため、今後も漢字の復習をしていく必要がある。
令和7年度第5学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の意見をまとめることができる。 ▲既習漢字を使って文章を書こうとする意欲が低い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	学習した漢字を適切に使用する力 語彙を増やし、言語化する力
		具体的な授業改善の方策	・ノートやプリントなどの提出物を即時評価し、書字に関する意欲を高める。 ・漢字の小テストをファイリングし、点数を記録できるようにして、自分に適した学習計画を立てられるようにする。 ・慣用句や言葉の意味を考える活動を通して、意味や使い方を覚えていく。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	○自分の考えをもち、言葉や文章などで表現する力が身に付いた。 ○漢字の書き取りでは、1人1人が課題意識をもち、自主学習を通して定着を図ることができた。 ▲慣用句や言葉の意味を理解し、正確に使える技能を身に付ける。
令和8年度第6学年	令和8年10月	学習に関する児童の実態・課題	○長文の読解力が向上し、筆者の主張や登場人物の心情の変化を深く読み取ることができる。 ▲グループ討議では積極的に発言できるものの、友達の意見を踏まえて議論を深める聞き方にまだ課題がある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・文章全体の構成や表現の工夫を捉え、筆者の意図や人物の心情を深く吟味して味わう力。 ・他者の立場や考えを尊重して聞き、自分の意見と対比しながら議論を構造化・発展させる力。
		具体的な授業改善の方策	・叙述に基づき根拠を明確にして読む活動を取り入れ、多様な解釈を互いに検証し合う言語活動を工夫する。 ・「友達の発言を受けてつなぐ言葉（～さんの意見に付け足すと、など）」をどの教科の活動でも活用する。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	

授業改善推進中期プラン　算数〔小学校第6学年〕

昭島市立田中小学校

学年等		項 目	内　容
令和6年度　第4学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	○繰り返し時間を掛けて問題に取り組むと、理解できる児童が多い。 ▲繰り上がり、繰り下がりの計算や、かけ算九九など計算の基本が十分ではない。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	基礎基本の定着をし、自分の力で問題解決できる力
		具体的な授業改善の方策	特に、単元の初めでは確認の時間を多くとり、スモールステップで取り組めるようにする。学習の最後には補充プリントに取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	○授業の始めの復習や家庭学習での積み重ね、少人数学習により、児童の進度に合わせた学習を展開することができた。 ▲特にわり算の筆算については、基礎基本の定着のためにも引き続き、復習の時間が必要である。
令和7年度　第5学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○学習の理解が不十分なとき、個別に対応すると根気強く取り組む。 ▲小数の計算問題となると誤答が多くなったり、基準量や比較量が小数になったとき、倍の意味の理解が不十分である。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	既習事項を活用し、計算問題や考え方に生かす力
		具体的な授業改善の方策	簡単な整数で計算方法を確認し、復習の時間を確保する。 数量の関係に着目し、テープ図や数直線の図を用いて、式を立てられるようにする。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	○数直線を活用して数の関係を理解できる児童が増えた。 ▲分数の計算については、復習の時間が必要である。学校だけではなく、家庭学習（自主学習）も活用て、定着を図っていく必要がある。
令和8年度　第6学年	令和8年10月	学習に関する児童の実態・課題	○図や数直線を進んでノートに書き、問題の構造を視覚的に整理して答えを導き出すことができる。 ▲文字を使った式の意味は理解できているものの、具体的な場面に当てはめて活用する力に課題が見られる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・問題の数量関係を数学的な表現（図や数直線など）に置き換え、論理的に考察して解決する力。 ・数量とその関係を文字を用いた式に一般化し、事象の性質を説明・活用する力。
		具体的な授業改善の方策	・自力解決の段階で複数の図の表現を認め、それらの共通点や差異をペアで検討し合う場を設定する。 ・身近な生活場面から文字に置き換える必要性を実感させる。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	